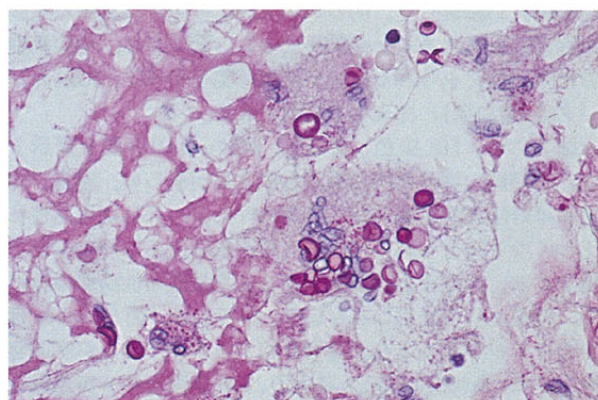
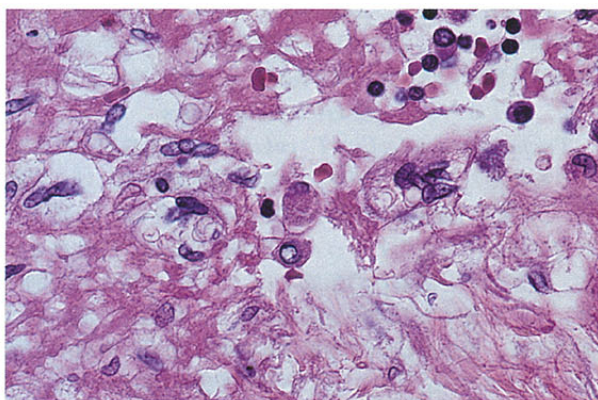


II. 真菌感染症



クリプトコッカス髄膜炎(HE 染色とPAS 染色)

症例は 68 歳男性。自己免疫性溶血性貧血に対してステロイド療法開始後 3 ヶ月で発熱、頭痛を発症。髄液の墨汁染色を含む諸種の検査が行われたが、結局死亡まで無菌性髄膜炎の原因は不明だった。剖検時、脳底部髄膜の一部にクリプトコッカス感染巣が顕微鏡的に見出された。多核ないし単核の食細胞に PAS 染色陽性の酵母型真菌が貪食されている。HE 染色では酵母状真菌がわかりにくい。周囲髄膜には軽度のリンパ球浸潤がびまん性に観察された。肺に 2 cm 大のクリプトコッカス肉芽腫が見出され、これが髄膜播種の原因病巣であった。